

級に認定します

前回までの級

2

模範答案

試験場

二年四組 氏名

問一 解答欄

あり	なら	はる
うみ	たのし	

問二 解答欄

言葉をよつて人間は他者に向かつて  
 自分を開く。なにかを伝達したいという  
 欲求、自分を理解してもらいたいという  
 欲求から、人は文章を書く。だが同時に  
 言葉によつて人間は他者に向かつて自  
 分を閉じる。(谷川俊太郎の文章より)

問三 解答欄

人間は自然が与えた能力  
 上の制限を越えることはでき  
 ぬ。そうかといって怠けていれ  
 ば、その制限の所在さえ知ら  
 ずにしまう。だから皆ゲーテに  
 なる気で精進することが必  
 要なのだ。  
 (芥川龍之介の文章より)

問四 解答欄

神測未形超る

問五 解答欄

ク	よ
久	与
リ	あ
利	安
ケ	け
介	計
ツ	ま
川	末
ト	え
止	衣



級に認定します

前回までの級  
2



試験場
二年 G 組
氏名

問一 解答欄

あり	なろう	はる
ろみ	たの	

問二 解答欄

言葉をよって人間は他者に向かつて  
 自分を開く。なにかを伝達したいという  
 欲求、自分を理解してもらいたいという  
 欲求から、人は文章を書く。だが同時に、  
 言葉によって人間は他者に向かって自分  
 を閉じる。 谷川俊太郎の文章より

問三 解答欄

人間は自然が与えた  
 能力上の制限を越えること  
 はできぬ。そうかといって  
 怠けていれば、その制限の  
 所在さえ知らずにしまう。  
 だから皆ゲートになる気  
 で精進することが必要  
 なのだ。  
 芥川龍之介の文章より

問四 解答欄

神測未形起ス

問五 解答欄

ク	よ
久	与
リ	あ
利	安
ケ	け
介	計
ツ	ま
川	未
ト	え
止	衣





級に認定します

前回までの級

2

試験場

三年二組

氏名

模範答案

問一 解答欄

あり	たろ	はる
らみ	たのし	

問二 解答欄

言葉によって人間は他者に向かって  
 自分を開く。なにかを伝達したいと  
 いう欲求、自分を理解してもらいたいと  
 いう欲求から、人は文章を書く。だが  
 同時に、言葉によって人間は他者に向  
 かって自分を閉じる。(谷川俊太郎の文章より)

問三 解答欄

人間は自然が与えた  
 能力上の制限を越えるこ  
 とはできぬ。そうかといって急  
 げていれば、その制限の所  
 在さえ知らずにしまう。  
 だから皆ゲー子になる気で  
 精進することが必要なの  
 だ。  
 (芥川龍之介の文章より)

問四 解答欄

神測未形超六

問五 解答欄

ク	よ
久	子
リ	あ
利	安
ケ	け
介	計
ツ	ま
川	末
ト	え
止	衣

級に認定します

前回までの級

2

模範答案

試験場

二年一組

氏名

問一 解答欄

あり	から	はら
うみ	たの	

問二 解答欄

言葉によって人間は他者に向かっ  
て自分を開く。なにかを伝達したいと  
いう欲求、自分を理解してもらいたいと  
いう欲求から、人は文章を書く。だが同  
時に、言葉によって人間は他者に向かっ  
て自分を閉じる。(谷川俊太郎の文章より)

問三 解答欄

人間は自然が与えた  
能力上の制限を越える  
ことはできぬ。そうかといって  
怠けていれば、その制限の  
所在さえ知らずにしまう。  
だから皆ゲートになる気で  
精進することが必要なのだ。  
芥川龍之介の文章より

問四 解答欄

神測未形超々

問五 解答欄

ク	よ
久	与
リ	あ
利	安
ケ	け
介	計
ツ	ま
川	末
ト	え
止	衣





級に認定します

前回までの級

2

模範答案

試験場
二年一組
氏名

問一 解答欄

あり	なら
うみ	はる
	たの

問二 解答欄

言葉によって人間は他者に向かって自分  
分を聞く。なにかを伝達したいという欲  
求、自分を理解してもらいたいという欲  
求から、人は文章を書く。だが同時に、言  
葉によって人間は他者に向かって自分を  
閉じる。 谷川俊太郎の文章より

問三 解答欄

人間は自然が与えた  
能力上の制限を越え  
ることはできぬ。そうかと  
いって怠けていけば、その  
制限の所在さえ知らず  
にしまう。だから皆ゲ-テに  
なる気で精進することが  
必要なのだ。  
芥川 龍之介の文章より

問四 解答欄

神測未形超

問五 解答欄

ク	よ
久	与
リ	あ
利	安
ケ	け
介	計
ッ	ま
川	末
ト	え
止	衣

級に認定します

前回までの級

二

模範答案

試験場

二年三組

氏名

問一 解答欄

あり	なら	ほろ
うみ	たろ	

問二 解答欄

言葉によって人間は他者に向かって自分を聞く。なにかを伝達したいという欲求、自分を理解してもらいたいという欲求から、人は文章を書く。だが同時に、言葉によって人間は他者に向かって自分を閉じる。(谷川俊太郎の文章より)

問三 解答欄

人間は自然が与えた能力上の制限を越えることはできぬ。そうかといって急いでいれば、その制限の所在さえ知らずにしまう。だから皆ゲートになる気で精進することが必要なのだ。  
(芥川龍之介の文章より)

問四 解答欄

神測未形超々

問五 解答欄

ク	よ
久	与
リ	あ
利	安
ケ	け
介	計
ツ	ま
川	末
ト	え
止	衣



級に認定します

前回までの級

2

模範答案

試験場

二年 四組

氏名

問一 解答欄

あり	なら	はる
うみ	たの	

問二 解答欄

言葉によって人間は他者に向かって  
 自分を閉く。なにかを伝達したいという  
 欲求、自分を理解してもらいたいという  
 欲求から、人は文章を書く。だが同時に、言  
 葉によって人間は他者に向かって自分を閉  
 じる。(谷川俊太郎の文章より)

問三 解答欄

人間は自然が与えた能力  
 上の制限を越えることはできぬ。  
 そうかといって怠けていれば、その  
 制限の所在さえ知らずにしまう。  
 だから皆ゲートになる気で精進  
 することが必要なのだ。  
 (芥川龍之介の文章より)

問四 解答欄

神測未形超  
 六

問五 解答欄

ク	よ
久	与
リ	あ
利	安
ケ	け
介	計
ツ	ま
川	末
ト	え
止	衣